

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 木暮 律子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>1) 研究</p> <p>観光学を学ぶ留学生のための専門日本語教材作成に向けて、昨年度に引き続き観光学専門用語の基礎調査を実施し、データの収集を行った。また、収集した観光学専門用語から基本専門用語を抽出し、漢字の読み方に見られる誤用について分析を進めた。留学生が優先的に学習する必要のある用語を特定するためには、漢字や語彙の難易度だけでなく、用語の認知度や理解度についても調査する必要があると思われる。来年度はそうした点を考慮に入れ、より詳細な調査を行うとともに、得られた研究成果を論文にまとめ、発表する予定である。また、観光学専門用語の特徴として、カタカナを含む用語が多いことから、今後はカタカナの学習に重点を置いた専門日本語教材の作成を進めていきたい。基本専門用語を効率的に学ぶことのできる実用的な教材を作成することにより、専門用語の習得における留学生の負担を軽減し、専門科目の理解を助けることができると思われる。</p> <p>2) 教育</p> <p>①社会人基礎力の養成を目指した課題解決型学習の実践 (多文化共生論)</p> <p>本講義は1年生を対象とした専門導入科目であるが、専門科目を学ぼううえで基礎となる知識の習得だけでなく、課題解決型学習を取り入れることで、コミュニケーション能力や社会人基礎力も同時に身に付けていけるように工夫した。グループでのディスカッションやシミュレーションによる実践的なトレーニングを通して、学生の能動的な学びを引き出すことができたと思われる。</p> <p>②異文化間協働による大学紹介ポスターの作成 (異文化コミュニケーション)</p> <p>講義で学んだことを活かす実践的な活動として、留学生と日本人学生によるグループワークを実施し、日本語弱者の立場に立った話し方・書き方のトレーニングを行った。最終課題では、文化背景の異なる人に本学の魅力をわかりやすく伝えるポスターを作成し、発表会を実施した。作成した16グループのポスターは、発表会において受講生が評価し合うだけでなく、教職員からも講評をいただき、作品集としてまとめ成果を残した。</p> <p>③『留学生生活応援ブック』の作成 (2年生対象：プレゼミ活動)</p> <p>2年生を対象としたゼミ活動において、新入留学生のための大学生活ハンドブックを作成し、両学部の1年生及び交換留学生に配布した。この冊子は大学生活で必要な日本語表現や高崎市の生活情報を、留学生にも理解しやすいやさしい日本語で解説したもので、ゼミ活動の一環として2009年より毎年作成している。今年度は昨年度版に新たに2項目を追加して内容を充実させ、生活編12項目、会話編19項目にまとめた。</p> <p>④グループ研究の実施 (3年生対象：演習Iゼミナール活動)</p> <p>3年次のゼミでは、毎年グループで研究に取り組んでおり、研究テーマの設定から調査の計画・実施、報告まで学生が主体的に進めている。今年度は、4つのグループに分かれ、それぞれのテーマで調査を実施した。これらの成果は、共同調査報告会として春休みのゼミ合宿で発表したほか、調査報告書を論文集にまとめた。グループ研究を通し</p>	

て研究の一連の過程を経験することで、調査の進め方や論文の書き方を身に付け、4年次の卒業研究へとつなげている。

2 その他の事項

- ・群馬県情報公開審議会委員：群馬県情報公開条例及び公文書提供制度について議論し、パブリックコメントや公文書を検索するための資料の公表方法を検討した。(2013年12月25日開催)
- ・教員免許状更新講習講師：「観光と異文化理解」(2013年8月12日実施)